

ご挨拶

株式会社バルカー
代表取締役会長CEO

瀧澤 利一



令和4年の新春を迎え謹んでお慶びを申し上げます。
読者の皆さまには日頃から本誌をご愛読いただき、厚く御礼申し上げます。

去年は、新型コロナウイルス感染拡大の問題により経済活動や社会活動が大きく影響を受けました。そして、その対策の切り札として実施されたワクチン摂取も、変異種の出現や追加接種の必要が出てくるなど、我々はウィズコロナの中で新たな行動様式が求められるようになりました。一方で、世界のトレンドとして注目すべき点として、半導体に対する歴史的にも例の無い需要の活況、環境問題に対して多様な動き、経済安全保障問題への関心の高まりが大きくあった年でありました。読者の皆さまにとっても、これらの点は大きな関心事であったのではないかと想像します。環境問題に対しては、当社も「気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD)」提言への賛同を表明し、その視点から関連する様々な活動の実践やレポートの整備にも取り組んでまいり計画です。

グレートリセットという言葉に象徴されるように、あらゆる価値観がものすごいスピードで大きく変化しています。当社グループとしても、常に周囲を取り巻く状況を敏感に察知する感覚を磨き、その変化に対して迅速な対応を実行出来るような企業への変革を継続的に行い、皆さまのご期待に沿えるような事業活動を展開してまいります。こうした情勢を背景に、当社グループの技術開発も過去の慣習や成功体験にとらわれずに、外部とのコミュニケーションを重視して、当社グループには無い発想を取り入れることにも力点を置いた活動を実行しており、昨年においては複数の技術開発に関連する資本業務提携を発表する運びとなりました。このような新たな枠組みにより、近い将来には当社グループの新たな柱となる技術開発成果が創出されることを期待していただきたいと思っております。

さて、昨年の本誌でのご挨拶で「2021年を変革元年と位置付ける」と述べさせていただきましたが、先に申し上げた諸点を含めて昨年はいくつかの企業変革 (CX) に向けた取組を実行に移してまいりました。本年は、このような土台の上にDXの推進による更なる変革加速化を実現し、デジタル化が加速されていく私たちを取り巻く社会の中で、その発展に貢献出来る価値の創造に向けた活動を全社として取り組んでまいります。

当社は、2022年の4月より始まる東証の新たな市場再編で、プライム市場に参画することを選択いたしました。この新たな枠組みの中、THE VALQUA WAYによる理念経営を更に進化させて2027年の創業100周年に向けて、「未来と未知に挑むチャレンジングな企業」を実現することでステークホルダーへの提供価値を更に増加させることを目指して邁進してまいります。

最後になりますが、今後とも一層のお引き立てをお願い申し上げますとともに、読者の皆さまの益々の発展を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。